学校だより
みなみたなか
平成２５年６月２８日
練馬区立南田中小学校
校長　柾谷　雅弘

単元を貫く言語活動を取り入れた授業改善を目指して

校長　柾谷雅弘

新しい学習指導要領では、子供たちの現状をふまえ、「生きる力」を育むという理念のもと、知識や技能の習得とともに思考力・判断力・表現力などの育成が重視されています。

この思考力・判断力・表現力を育成するために、児童の言語活動を充実させ指導に当たることが大事になっています。そして、その中核を担うのが国語の授業です。

国語科で育てた能力を基にして、理科や社会科の記録や報告、算数の思考法や説明・証明、理科の仮説・観察・実験、まとめなど、各教科で身に付けた知識・技能、考え方を活用する活動を充実させることが何より大切になっています。

本校では、平成２１年５月に校地内に開館した区立南田中図書館と連携し国内最高水準の公立図書館からのサービスや支援を頂きながら授業改善に努めてきました。

昨年度までは、研究主題を「自分の考えをもち、表現できる子の育成」として、国語科の文学作品の指導を通して、研究を深めてきました。今年度からは、説明的文章の指導を通してどのように授業改善をすれば研究主題に迫ることができるか研究を進めています。

5年2組授業研究より

夏休み前に４つの学年【５年（６／１２）、３年・４年（６／２８）、２年（７／１７）】で授業研究に取り組んでいます。

ところで、現在、国語科の授業では、大幅な授業改善が求められています。従来の授業では、場面毎に詳しく読み進めていくという指導が多かったのですが、文部科学省の国語科教科調査官の水戸部修治先生が提唱する「単元を貫く言語活動を位置づけた国語科の授業」では、

① 本単元で付けたい力を見極める。
② 付けたい力にぴったりな言語活動を選定する。
③ 言語活動を単元を貫いて位置づける。
④ 児童の「大好き！」「知りたい・伝えたい！」を重視する。

これらの四原則を基に指導することにより、自分の課題を常にもちながら読み進め、主体的に思考・判断を積み重ねて学習に取り組むようになると指摘してこれを推奨しているのです。

今回の各学年の授業研究では、

- ５年では、「生き物は円柱形」の教材を「筆者の考えをとらえ、自分の考えを発表しよう。」という単元を貫く言語活動、
- ３年では、「ありの行列」の教材を「読んで、感想をもとう」という単元を貫く言語活動、
- ４年では、「動いて、考えて、また動く」の教材を、「説明文を読んで筆者に手紙を書こう」という単元を貫く言語活動、
- ２年では、「どうぶつ園のじゅうい」の教材を、「興味をもった仕事について、カードを作って発表しよう」という単元を貫く言語活動をそれぞれ設定し取り組んでいます。

これまでの授業研究でも、一人一人の児童が、自分の課題を追究するために、並行読書で学んだことも生かしながら本文を読み進めたり、お互いの考えを交流し合ったりする姿が随所に見られました。また、授業時間が延びてもまだ話し合いを続けたい、もっと、学習をしたいという児童の声もたくさんありました。このような意欲的に学習に取り組む児童の姿を見るにつけ、これらの実践こそ、新学指導要領で求められている授業そのものであると実感しています。これからも、各学級で授業改善に努め、基礎・基本の定着とともに、思考力・判断力・表現力の育成に努めて参ります。

「国内最高水準の公立図書館からの支援やサービスを受けているので、我々も、国内最高水準の国語の授業を目指していこう。」を合い言葉に授業改善に取り組んでいます。

国語の授業を参観される際、これらの点も含めてごらんいただければと願っています。

南が丘中学校生徒とみなみ委員会児童による挨拶運動

本校の児童会にあたる「みなみ委員会」の活動として、みなみ委員の児童が交替で、６月２４日(月）から２８日(金）まで、登校時間に合わせて正門と西門に立ち、挨拶運動に取り組みました。

この活動に合わせて、南が丘中学校の生徒も、挨拶運動を応援するため、朝来校し、みなみ委員会の児童と共に、さわやかな挨拶を登校して来る児童に交わしてくれました。本校の卒業生でもある中学生に久しぶりに会うことが出来、みんな笑顔で挨拶が出来ました。頼もしい先輩でした。